



吉 嶺 文 俊	22	伊 藤 聰	25
山 本 保	22	岩 渕 洋 一 (岩 渕 伊 織)	25
富 樫 賢 一	23	藤 森 勝 也	26
福 本 一 朗	23	浅 井 忍	26
横 森 忠 紘	24	品 田 章 二	27
永 井 明 彦	24	和 泉 徹	27

ご執筆いただきありがとうございました。

小型全国時刻表2026年版

吉 嶺 文 俊

この3月にJRダイヤが大幅に改訂されたので、久しぶりに本屋さんで時刻表を購入してみた。一番小さい携帯版だがカラー刷りの索引地図がとても懐かしい。以前は国鉄と私鉄を区別しておけば何とかになっていた鉄道路線が、いまでは7種類に細分化されていた。

黒くて太い線はJRの幹線。県内では上越線・羽越本線・信越本線などに加えてなんと磐越西線もこれに相当する。ディーゼル列車なのに驚きだ。しかも新潟駅を朝6時26分に出発し津川駅には8時02分に到着するので津川病院の診療には何とか間に合う。

青くて太い線はJRの地方交通線であり、県内では越後線、只見線、飯山線の3つが相当する。そしてえちごトキめき鉄道と北越急行のような第三セクターは細い黒線で記されている。医師不足で助勤頼みの新潟県内においてこれらの鉄道網は大切だ。例えば長岡駅を朝6時54分に発車する列車は、越後川口での乗換なしで十日町駅着が7時48分。そこで3分以内に階段を駆け上がってホームで待つカラフルなほくほく線に乗り込めば、8時01分にまつだい駅に到着するので「まつだい診療センター」の診療には十分間に合う。普段活用しているジョ○ダンで検証したところ、乗換時間の条件を短めに設定することで確認できた。

Z世代から見ると、そんな無駄なことをしていないで始めからスマホ検索でいいじゃないかといわれそうだ。昭和生まれ世代としては、紙をパラパラとめくりながら、気になる頁の角を折り曲げたり、鉛筆で線を引いたりしながら、忘れていたあの頃を少しだけ思い出したいのだ。

ところで北越北線は平成9年開業の新しい鉄道である。トンネルが多く難工事だったそうだが、それが功を奏して雪にも風にも強い。なんととっても加速が抜群によい！最近キャッシュレス決済も可能となったが残念なことにSui○aはまだのようだ。

(十日町市中魚沼郡医師会)

心と精神 (1)

山 本 保

私が敬愛する故吉崎正義先生(上越出身-旧制高田中学-旧制新潟高校-一浪-東大医卒-厚生省-厚労省初代健康政策局長)が、日本医事新報(平成3年1月5日)に、次のように書かれています。「旧制高校2年のドイツ語で読んだゲーテのヴェルテルの書き出しは、ヴァス イスト ダス ヘルツ デス メンシェンス というのだったと記憶しているが、人間の心とは本当に何なのだろう」。そして「精神の健康に対して、もっと積極的な接近が必要である」と述べています。

「天声人語を書くために生まれてきた男」といわれている故深代惇郎さんが、昭和50年8月23日に次のように書いています。「米国のベトナム戦争を告発する記録映画『ハーツ・アンド・マインズ(心と精神)』を見る機会があった。南ベトナム兵士が埋葬される場面で、老母は悲しみのあまり、穴の中のヒツギにまではい下りようとして、周囲の人に引き上げられる。場面が転換すると、米派遣軍司令官は冷然と語る。『東洋人は人間の命を安く考え、大事にしません』。深代さんは言及していませんが、作者は「ハーツとマインズ」を意図して使い分けたのだと思います。深代さんは、この年の11月亡くなりました(享年46歳)。

長年、阪大医学部で医哲学を講じられた澤潟久敬さんは、昭和40年「考える」と題する講演で「精神とは、考えることを中心とする機能である」と述べています。「心」についてはふれていません。小林秀雄さんは「私たちは、人の心はわからぬものと永遠に繰返すであろう。人の心が自他共に全く見透しのような化物染みた世間に誰が住めるか、と言っているのだ」と喝破しています。

(新潟市医師会)

シーシュポスの神話

富 樫 賢 一

最強の寒波が押し寄せた日だった。朝新聞を取ろうと玄関のドアを開けようとしたが、全く動かない。新聞を取りたい一心で必死に押す。少し開く。その隙間からスコップで少しずつ雪をどけ、何とか外に出た。高床式の玄関から道路までの階段はすっかり雪に埋もれていた。

いつもなら安全のため階段の下から雪のけするのだが、今回は玄関前の雪をまずのけ、踊り場の雪をのけ、それから一段ずつ下に向かってのけていった。そして、やっと道路までたどり着いた。やれやれと階段を上がって家に戻ろうとすると、また積もってる。今度は下から一段ずつのけてく。その間も雪は絶え間なく降り続けている。音も立てずに。腹立つ。が、どうしようもない。シーシュポスの心境だ。

ホメロスによればシーシュポスは人間界で最も聡明かつ慎重な人間だったという。それが何故か神々から懲罰を受けることになった。その懲罰というのが巨大な岩を山頂まで押し上げること。が、必死の思いで押し上げた岩は、その重みでたちまち山頂から平原に転がり落ちていく。彼はこうして無益で希望のない労働を繰り返さなければならなかった。

が、カミュは言う。山頂から平原の岩を目指して下る間の絶望感と苦痛はいつしか喜びに変わっていったと。自分達もいつ死ぬかもしれない状況下で、日々同じようなことを繰り返している。不条理と知りながらも。が、決して不幸ではない。シーシュポスも同じではなかったかと言う。

家の中に入ると、やっと起きてきた女房が不思議そうに見つめる。何をしていたかを説明する気にもならず、長靴を脱ごうとしたが中に雪が詰まっていてなかなか脱げない。イライラは頂点にまで達したが、暖かい朝食を食べ終わる頃にはそれも収まり、そしてまた雪のけをしようという気になっていた。

(長岡市医師会)

集団の罪は許されるか

福 本 一 朗

「ユダヤ人であるという罪 (= 集団の罪)」を問うたナチスのため、600万人がホロコーストの被害にあったユダヤ人の手により、今度はガザで7万人の子供達が飢餓に苦しみ、5万人の子供達が死傷しています。

そもそも「罪」とは、法律的には「法令によって刑事罰が定められている行為」であり、また道徳的・社会的には各宗教の「教義や規範に反する行為や状態」を指し、神や仏といった超越的な存在への背反とされています。文字として残されている最も古い罪は、紀元前538年エジプト出発の後にモーセがシナイ山にて、神より授かったとされる二枚の石板に書かれた「十戒」で、旧約聖書の出エジプト記に記されている(4. あなたの父母を敬え。5. 殺してはならない。6. 姦淫してはならない。7. 盗んではならない。・・・)だとされています。

しかし、罪はあくまで個人の行為によって生じるものであるため、たとえ同族であっても、自分以外の人の行為によって無実の人が罰せられることは許されません。ドイツ連邦共和国大統領ヴァイツェッカー(Weizsäcker 1920～2015)も、「国民全体の罪とか無実というものはありません。罪も無実も集団的なものではなく個人的なものです。現在のドイツ国民は、その大部分が生まれてさえないませんでした。彼らは自分が犯したのではない行為について自らの罪を認めることはできません。」と述べています。

今回のイラン戦争において、トランプ大統領は「イラン国民全体の罪」と非難し、不当な侵略爆撃によって、165人の無実の女子小学生達を一瞬の間に虐殺しました。米国・イスラエルの指導者達は、その子供達に「イラン人であるという集団の罪」があったというのでしょうか? 「殺すなかれ」という十戒の罪は、決して米国民やイスラエル国民による「集団の罪」などではなく、両国の指導者の「個人的な罪」として非難されるべきだと思うのは私だけでしょうか?

(長岡市医師会)

しろまんまフェチ

横 森 忠 紘

私が生まれ育った山梨県は、県土の大半が険しい峰々に抱かれた山林である。甲府盆地のような平坦地でも殆どが砂地で水田耕作には適さないため、太平洋戦争最中の幼児の頃はしろまんまにありつくことは稀であった。大麦100%の麦飯や、稗飯・粟飯（勿論お米は0%）、とうもろこし、さつま芋などが主食であった。戦争が終わっても、流通機構が確立するまで白米は貴重品であった。小学生の悪ガキたちの「死ぬときはどんな方法が良いか」というテーマの討論会(?)で、ひとりが「しろまんま食い過ぎて死にてーや」と言い、俺もオラもと皆雪崩を打って賛同した思い出が蘇える。中学生の時、社会科の授業で「新潟県新潟村は人口4,000人だが、米の穫れ高は人口60万人の山梨県全体の収穫高と同じだ」と教わり強烈なショックを受けた。そして昭和45年に、群馬県で学んでいた私は大学外科教室の関連病院であった小千谷病院にローテーションで赴任した。その折に、真っ先に新潟村を尋ねた。新潟村の名称は既になく、合併により見附市の一部となっていた。その後国の減反政策や農村の跡継ぎ不足などの影響で、多くの田圃は工業団地や大型スーパーに変貌した。

そして今、日本一の評価を得ている「魚沼産コシヒカリ」のお膝元に棲みついて毎日しろまんま三昧で幸せな毎日を過ごしている。美味しいものを食べていると、いつの間にか不味いものが判るようになるのは不幸なことかも知れない。東京の一流ホテルで出される和食のお米には首をかしげてしまう。その頃病院の入院患者さんの食事は100%地元のこしひかりであった。かつてこっそり輸入米（仕入れ価格は10分の1以下だった）を少量混ぜて出してみたところ、一回で見破られてしまった。

昨今は、健康のため麦飯や五穀米が推奨されているが、私は断固として白米一辺倒である。しろまんまに憧れた小児体験のトラウマであろうか。

(小千谷市魚沼市医師会)

生成 AI と医療と戦争

永 井 明 彦

今年の内科学会講演会のパネルディスカッション「近代医療のゲームチェンジャー」をオンラインで視聴し、生成 AI を用いた BCI (ブレイン・コンピュータ・インターフェース) による神経医療に関する興味深い講演を聞いた。生成 AI の医療への関わりというと、深層学習に基づいた診断への応用が主流だと思っていたが、脳卒中後の片麻痺や脊髄損傷患者の脳活動状態を AI で判定し、機能回復を誘導する先進的なりハビリ治療が行われていることを知って驚いた。

一方、ロシアに侵攻されたウクライナは、窮余の一策として生成 AI を搭載した完全自立型致死兵器のドローンを戦場に投入し、皮肉なことに従来の戦争の在り方を一変させた。また、米国はヴェネズエラ侵攻やイラン戦争で、生成 AI を利用してピンポイントの攻撃を可能にした。2045年に起こると予想されているシンギュラリティが既に到来したかのような錯覚を覚える。

米国がヴェネズエラやイランに侵攻した際に用いた生成 AI は、当初、アンソロピック社のクラウド AI と思われたが、実はパラソティア社の製品だったようだ。イタリア系米国人のアモデイ兄妹が創設したアンソロピック社は、自社の生成 AI が無制限に戦争に使われることを拒否して米国国防総省との契約を打ち切った。アモデイ兄妹は TIME 誌の「AI 分野で最も影響力のある100人」に選出されているが、同社は生成 AI が戦場での殺傷行為や大規模な国民監視に使われることを嫌う数少ない良心的な AI 企業といえる。

AI 医療機器の研究や開発も生命・医学系の倫理指針に則り、対象患者の個人情報保護が必要があるが、生成 AI が完全自立型兵器に用いられることはアモデイ兄妹でなくても忌避したい。シビリアンコントロールが暴走してイランの民間人の被害が出ることも意に介さず、イデオクラシーに邁進する今の米国政府には、戦場に生成 AI を持ち込む資格はないのではないかと。

(新潟市医師会)

燕市、三条市のファンです

伊 藤 聡

医師二年目の研修は県立吉田病院で受けた。水泳が好きで、旧吉田町から燕市のB&Gのプールまで泳ぎに行った。肥満防止のため泳いだのに、帰りに杭州飯店で油ギトギトの背油チャッチャ系ラーメンを食べると、果たしてカロリーの収支はどうなのかと疑問に思った。その後、全国的にも燕三条系ラーメンが有名になったが、今杭州飯店のラーメンを食べてみると、意外に見た目よりもあっさりしていると感じる。

吉田病院時代の辛い思い出がひとつある。肺がんの女性を担当したが、当時は悪性疾患の病名を告知しなかった。嘘の病名を告げ、特効薬（化学療法）を使用すると説明をしたところ、燕の洋食器フルセットが送られてきて暗い気持ちになった。その後私のローテート終了後に脳転移で亡くなられたとお聞きした。

昨年は、オートバイで三条市の歴史民俗産業資料館「ほまれあ」にいった（入場無料）。名誉市民の功績を展示しており、ジャイアント馬場さん

の乗っていたキャデラック、保持していたチャンピオンベルト、等身大の人形（デカイ！）が展示してあり、プロレスファンにはお勧めである。お昼は正広食堂のカレーラーメンで、噂通りに美味しかった。5月には鶴瓶の「家族に乾杯」でも奥田民生さんにより燕市が紹介され、大変面白かった。

最後に、アメリカ留学時の話を。レンタカーでモニュメント・バレーに行った。ジョン・ウエインの駅馬車やBack to the Future Part IIIのロケ地となった荒野である。スーパーマーケットに寄ってもお客さんはNative Americansばかりであった。Goulding's Lodgeという有名な宿に宿泊し、レストランで食事をしたが、給仕してくれるのも皆Native Americansであった。ああ、本当に地球の果てに来たなと思い、ナイフとフォークを取って食事にかかると、何とそこにはTsubameの印字があった。

春 朧

岩
渕
伊
織

待春や甲羅を重ね亀動く

渡り残りし白鳥のたゞ一羽

薄々と佐渡浅春の波高し

薪小屋と言ふ古民家や薔薇芽吹く

古きものあればすなわち下萌ゆる

バスケットゴール真下の草青む

春愁やレモン浮かべしティーカップ

初花の二人で過ごすひと日かな

皆過去となりしと思ふ落花かな

一瞬と言ふは永遠飛花落花

父と言ふ淋しきものや春の風

闇消へて春の朧につゝまれし

（三条市医師会）

丙午（ひのえうま）

『部 報』

藤 森 勝 也

浅 井 忍

丙午（ひのえうま）の本年が進む中、世界はまさに「火」のエネルギーに揺れ動いているように感じます。十干の「丙」と十二支の「午」が重なる丙午は、古来より「陽の火」が最も強まる年とされ、情熱・前進・挑戦といった力が高まる一方、勢いが過度になりやすいとも言われてきました。

国内では、2月の衆議院議員選挙で自民党が大きく議席を伸ばし、予想を超える結果となりました。これを丙午と直接結びつけることはできませんが、「勢い」や「転換」を象徴する年に起きた出来事として、どこか印象的です。

世界に目を向ければ、ある国の大統領が強硬な外交姿勢を取り、国際社会もまた自国中心主義やナショナリズムの色を濃くしています。ロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、中国や北朝鮮の動きも緊張を高めています。こうした流れは、まさに「火」が暴れ出したかのようで、行きつく先には「共倒れ」「共貧」「環境破壊」といった意図せざる結果が待ち受けているようにも思われます。

一方、医療の世界ではあらたな地域医療構想のもと、役割分担と連携が重視されています。独り勝ちを目指すのではなく、互いの強みを生かし合い、協同・協調・協力によって地域全体の医療を守るという考え方です。この姿勢は、国際社会が進むべき方向を静かに示しているようにも感じます。

丙午の年は「燃え上がるエネルギー」を象徴しますが、その火を争いに使うのか、未来を照らす灯火にするのかは、私たち次第です。年末までの世界の動きに不安を覚えつつも、医療者として、地域の暮らしと命を守る営みが、穏やかであることを願ってやみません。

(新発田北蒲原医師会)

3月の土曜日にイタリア軒で大学の卒後50年の同級会があった。参加者は33名で、くじで決まった席に着くと運良く会場がすべて見渡せた。コース料理を食べながらテーブルごとに自己紹介が始まった。一人で3分話すと1時間30分以上がかかってしまうので、持ち時間は3分以内ということになった。外見が変わらない人もいれば、著しく変わった人もいて、誰と分からない人もいた。同じように私が誰かわからなくて困惑している人もいるかもしれないと思った。自己紹介が終わると別のテーブルに向かう人が入り乱れて、会場はカオスの状態になった。そうこうしているうちに私はTさんと立って話をしていた。Tさんは産婦人科のT先輩と結婚して苗字が変わってTさんになった。浜松市で耳鼻咽喉科を開業している。ご主人は陸上競技部の先輩である。T先輩が所有している『部報』を処分するので要らないかと訊かれた。

2週間後に、自筆の丁寧な文面の手紙とともに第7号と第8号の『部報』が届いた。『部報』は、陸上競技部の担当教授の巻頭言と、卒業生と現役部員が書いた文章をまとめた60ページ余りの小冊子である。表紙には新大医学部陸上競技部のロゴマークである赤い脊椎の横断面が印刷されている。『部報』は在学していた昭和45年から51年の間に3冊が発行されていて、第6号を持っているので3冊がそろった。第6号には「欧陽菲菲さんに年賀状を出すに至る顛末」というタイトルで、医学進学過程の日々を綴ったものが載っている。第7号には「古い進む日々」のタイトルで、鬱々とした覇気のないことを書いている。第8号には「ああ陸上6年目」と題して最高学年で味わうペーソスを書いている。第8号の各部員の文章の末尾には「プロフィール」として1行の文章と出身高校が記載されていて、私は「今年は春先から秘密トレーニングを重ねて四百Rの一角をねらう」と書いた。ちなみにTさんと私は新発田高校の出身である。

(新潟市医師会)

補聴器と集音器の使い分け

品 田 章 二

補聴器を5年程前から使用している加齢性難聴の筆者は、検査で、シをウ、タをア、ニをウ、ジをイ、スをト、ネをメ、テをケと誤聴した。

補聴器のおかげで日常生活に支障はなく、テレビの音量も18以上にすれば聞くことができる。

補聴器は湿気を嫌うので、起床から洗顔を済ませるまでは耳に入れない。また、入浴前には電源をオフにして乾燥用容器に入れ、湿気による錆びを防止する。

このように補聴器を外している時を含め、筆者の日常生活の質を維持するため活躍しているのが各種の集音器や拡声器である。

起床時にはテレビのニュースを正確に聞き取りたいので、補聴器は着けないで、肩掛け集音器だけを使用する。

補聴器を着けた後も、テレビ以外の生活音、例えばエアコンの作業開始や停止の音声、ドアホンの音、スマホのバイブレーション音などを聞き取るためには、骨伝導タイプの集音器の補助が必要である。耳に入れない小型のため、補聴器の邪魔にならず、重宝している。

電話の音声については、骨伝導型の集音器では明快に声を聞き取れないので、受話器部分に電話機用の拡声器を取り付けている。

入浴後は、補聴器も肩掛け集音器も骨伝導型の集音器も着けない。テレビを視聴するには音量を最大40まで上げ、身体をテレビに近づけている。

加齢性難聴者には補聴器、集音器、電話機用の拡声器などの補助が必要であり、こまめな管理が快適な生活に繋がると思っている。

(新潟市医師会)

見えない世界へと導かれて

和 泉 徹

私の人生はいつも見えない世界に導かれ、背中を押され続けてきた。

幼い頃、目の前の授業よりも読書に惹かれた。広がっていく世界に心が躍った。昭和30年代、田舎の教育は敗戦による痛手が濃く、水準の維持に腐心していたと後に聞く。そんな裏事情など露知らず「もっと面白いことがきっとある」と図書室に頻繁に通った。

家業は医療とは全く無縁。医学部に進んで初めて、医業の“見える世界”の堅牢さ、不合理な慣習に驚かされた。それはやがて抵抗感に変わり、閉塞した関係よりも、天井のない青い空、新しい在り方へと関心が移った。昭和40年代には渦中の改革運動に参画、昭和50年代に海外へ飛び出し、グローバルな医学・医療に自分を溶け込ませた。未知の生き様が性に合っていた。

平成7年に教授に任用されたとき、北里大学の実像はほとんど知らなかった。北里柴三郎に所縁の大学？ それくらいの認識で不案内な医育環境に飛び込んだ。しかし、北里大学の豊かさを直ぐに思い知る。大学の目標や沿革、スタッフや学生の資質を学ぶにつれ、天命と定めた。と同時に、その惰性や硬直さにいち早く気付いた。そこでノビシロ（伸び代）に自分の思いを乗せた。教育内容を刷新し、診療の最新化、研究の先端化、そして大幅な若手重用を諮る。没頭した18年はまさに肥沃な大地を耕す毎日であった。

勿論見える世界での働きが基本である。安定した成果が求められる。しかし時として見えない、未踏な世界へと運命的に導かれる。既存の枠組みに新風を吹き込み、燻っていた火を大きく灯し、持続可能な仕様への変容である。現在の地域医療にも未曾有の試練が待っている。それにも拘わらず、行政を含めて空念仏を繰返す。見えない変局点はある日唐突にやってくる。その天命に向かって、高齢者の Well-being づくり、DOPPO リハビリに集中している。

(新潟市医師会)